

本頁には標準外の漢字が多用されています。

『文字鏡』を利用して作成しましたので、正しい文字の表出には『文字鏡』が必要です。

[PDF版はこちら](#)

崎山理『越語資料』(『日本語の形成』三省堂1990所収)から						試論
No.	羅香林が諸漢籍から抜き出した越語		Grammata Serica Recensaによる		越語(再構)	上代日本語(参考)
	語義	発音	上古音	中古音		
1	大	濯	do'k	da'k	d'ak	
2	广大	蔘綏	tsu'Em-sniwEr	ts'am-swi	ts'am-swi	
2B	广大	羞繹紛母	sniog-diak-piwEn-mEg	siEu-iak-p'iuEn-mEu	siEu-iak-p'iEn-mEu	
3	信	穆	miok	miuk	miuk	
4	輔	胥	sio	siwo	sio/siwo	
5	受	龕		*kam	kam	
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20	赴江或水	買儀塵	?-ngia-dien	mai-ngjie-dien	mai-ngjie-dien	下記
	越語の語順不明で「買＝水」か不明なるも、高句麗で「買」が「川、水」であり注意を惹く。和語の「ミ(ヅ)」へつながるものか。					
21						
22						
23						
24	鷄	割鷄	kat-kieg	kat-kiei	kat-kiei	かけ。擬音語？
25						
26	母	媼	g'wang	ɣ wang	ɣ wang	
27	婦妣	母媼		龍州土語岳母 meta	[mota]	
28	婦考	父媼		龍州土語岳父 pota	[pota]	
29a	犬		nog-siog	nau-siEn	nau-siEn	

29b	犬		nog	nau	nau-nau	擬音語か？
	夔一足	山纒	san-sog	san-sau	san-sau	下記
30	この難字はキ、ギと読まれ、一本足の神として <a href="#">山梨岡神社に祭られている</a> 。大山祇も。学研漢和大事典では「山にすみ、竜に似ていて一本足の怪物。・・帝舜のとき、音楽をつかさどった家臣の名。▽太古の部族の祖先神が、伝説ちゆうに組み入れられたもの」という。さて、「山魈(サンショウ)」という一本足の怪物もあり、これを越語が借用してsan-sauになっているものと思われる。 <a href="#">玄松子さんのサイト</a> に「和銅2年(709)伊予の大山祇神(おおやまづみのかみ)を勧請して山住(やまづみ)大権現と称した。」とある。このころから「ヅとズ」が混用されているのか。神社の伝承の信頼性が問題だが、山祇と山纒の習合があるのかもしれない。 <a href="#">キノ神、参考サイト</a> 。高句麗本紀299年鬼神が烽山で哭き客星が月を犯した、雷、地震。					
31						
32						
33						
34	海	夷	diEr	i 藤堂は yii	i	
35	田野	莱	lEg	lai	lai	
36	渚	单	tan	tan	tan	タギシ=渚+岸？
37	塩	餘	dio/diag	iwo/jio	iwo/jio	しほ
38	塩官	朱餘	tiu-iwo	tsiu-iwo	tsiu-iwo	
39	船	須慮	siu-lio	siu-liwo	siu-liwo	
40	水津	浦	biwo	biu		ほ。biwo=ミホか
40B	水津	歩	b'o	b'uo		ほ

[高句麗語の研究の勉強TOPへ](#)  
[HPへ戻る](#)